

時代を映す鏡

～三角縁神獸鏡からのメッセージ～

群馬県立中央中等教育学校 2年 小松美羽

1. 研究動機

先日、私は群馬県立歴史博物館で開催された、企画展「古墳大国群馬へのあゆみ」の関連行事である、宮内庁書陵部の徳田誠志先生の講演会「陵墓と宮内庁所蔵の群馬県出土考古品について」を拝聴した。数ある講演会の中からこれを選んだのには理由がある。

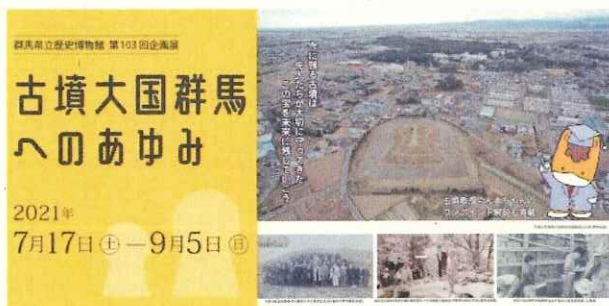
私は小学生の頃から、県内の貴重な古墳や人間味あふれる埴輪、きらびやかな副葬品が大好きで、県立歴史博物館もよく訪れていた。今年の春の特別展示「新・すばらしき群馬のはにわ」の関連行事で、東京国立博物館の学芸研究部研究員の河野正訓先生の講演会「東京国立博物館の埴輪―群馬県域を中心に―」も拝聴した。東京国立博物館は私の憧れの博物館だ。

このように博物館が大好きな私であるが、今回の講演会を見つけた際に「宮内庁」に疑問を持った。なぜ宮内庁と古墳が結びつくのだろう。博物館とは違ったロマンを感じ、新たな知識を得たい！と思い、拝聴しようと思った。



↑三角縁四神四獣鏡

前橋天神山古墳出土



講演の中で、なぜ宮内庁が古墳や副葬品の管理をしているのか、その理由は明かされた。江戸時代中期、中世の戦国・混乱が終わり治世が安定したことにより、世間の関心は当時荒れはてていた陵墓（りょうぼ）に向いた。「陵（りょう・みささぎ）」とは天皇・皇后・太皇太后及び皇太后陛下の埋葬地、「墓（ぼ・はか）」とはその他の皇族の埋葬地のことだそう。現在宮内庁の管轄する陵は188か所、墓は555か所、その他分骨所や火葬塚・灰塚、歯髪爪塔、陵墓参考地（陵墓である可能性の高いもののそのことを裏付ける決定的な証拠の存在しないお墓）などは合わせて156か所であり、合計899か所の管理を行っているそう。代表的な陵墓には、世界最大の古墳で百舌鳥・古市古墳群に位置し世界遺産にも登録された大仙古墳こと仁徳天皇陵、京都府伏見区の寺院の一角にある近衛天皇陵、多くの陵が集中する墓地にある四条天皇陵、東京都八王子市にある昭和天皇陵などがあげられる。



仁徳天皇陵



近衛天皇陵



四条天皇陵



昭和天皇陵

そして、その陵墓調査を担当したのが当時の宮内省（現在の宮内庁）であり、陵墓調査に伴い各地の古墳をはじめとする文化財の調査も行ったそう。その調査によって得られた情報や出土品は、現在も宮内庁の書陵部が管理している。

そのため、群馬県から出土した銅鏡や大刀なども宮内庁が所蔵している。

県内には陵墓に当たる古墳などは、現在は存在しない。「現在は」としたのは、明治時代のほんの一時期、陵墓があったからだ。それは第10代崇神天皇の皇子の豊城入彦命の墓で、総社二子山古墳にあたる。しかし、それを裏付ける資料が不明瞭なことから、二子山古墳は陵墓ではないという結果に至った。しかし、この調査にあたり、二子山古墳に関する綿密な調査がされたことは事実だ。

つまり、現在の古墳時代史が究明され、私達が古墳や副葬品に関する知識を得ることが出来るのは、宮内庁による精密な陵墓をはじめとした古墳の調査のおかげなのである。



↑ 総社二子山古墳
6世紀後半の大型前方後円墳

私は講演の中で、「群馬県で出土した三角縁神獣鏡」に関する話に大変興味をそそられた。

三角縁神獣鏡とは、大和政権との強いつながりを示す、古墳時代の最上級の品だ。副葬品として埋葬される。東日本からはたった17枚しか出土していない中、群馬県内からなんと12枚が出土している！これは、いかに東国・上野国が大国として大和政権から大切にされていたか、日本においてどれだけの力を持っていたかを示す貴重な資料だと思う。

このことを踏まえて、古墳時代における三角縁神獣鏡の意味と上野国と大和政権とのかかわりについて研究しようと思った。

2. 三角縁神獣鏡とは

(1) 三角縁神獣鏡の概要

そもそも三角縁神獣鏡とはどのようなものなのか。その特徴について調べた。

三角縁神獣鏡は、古代の銅鏡の一種で、3～4世紀（古墳時代前期）の古墳から頻繁に出土する。全国各地からおよそ400枚の三角縁神獣鏡が見つかっている。（中には現在所在不明のものや拓本などの資料のみが残っているものもある。）直径23cm前後と比較的大型のものが多い。邪馬台国の女王卑弥呼が魏から送られた鏡だとする説もある。銅鏡の中では、最も出土枚数の多い種類だ。

そして最大の特徴は、鏡の縁の断面が三角形状に尖っていることだ。この形状は大変珍しく、他の銅鏡と区別される。



三角縁神獣鏡の断面（模式図）→

(2)三角縁神獣鏡の定義（一説）

三角縁神獣鏡の定義として、考古学者の樋口隆康氏は以下の6条件をあげている。

- ①直径 20 cm以上の大型品
- ②縁の断面が三角形
- ③外区（縁のすぐ内側）は鋸歯文帯*1・複線波文帯*2・鋸歯文帯からなる
- ④内区外周に、銘帯*3・獣帯*4・唐草文帯*5・波文帯*6・鋸歯文帯・半円方形帯*7のいずれかが配置
- ⑤内区主文区は、4あるいは6の小乳*8と呼ばれる突起により等間隔に区分されている
その小乳の間に神像（あるいは仏像）と瑞獣*9が求心*10または同方向に配置される
- ⑥銘帯に施される銘文は七字句数種と四字句一種がある

[語句注]

*1鋸歯文帯 三角形を連鎖して表現した幾何学文様の部分。

鋸(のこぎり)の歯のように見えることから。中国の漢代の青銅器に多く見られる。古墳時代、神聖な模様とされ、人物埴輪の衣服や盾持ち埴輪の盾の模様によく用いられている。

*2複線波文帯 2本の波線による幾何学文様の部分。

*3銘帯 銘文(文字)の刻まれた部分。

*4獣帯 神仙や霊獣の像が帯状に配置された部分。

*5唐草文帯 唐草文様の施された部分。

*6波文帯 波線による文様の施された部分。

*7半円方形帯 半円と方形が交互に並べられた文様の部分。

*8小乳 鏡の背面にある円錐もしくは半球状の突起。この数によって三角縁神獣鏡は古いものと新しいものとに分類することが出来る。詳しくは研究6。

*9瑞獣(ずいじゅう) 古代中国でこの世の動物たちの長と考えられていた伝説上の動物。

*10求心 中心に向かっていること。銅鏡では中央の鈕(つまみ)に向かうこと。



↑三角縁神獣鏡の部位の名称

元の画像は群馬県立歴史博物館で撮影

以上を満たす鏡を大陸製の三角縁神獣鏡とする。



一方で、それに属さない仿製（日本列島で、大陸製のものを真似て作ったもの）とされる鏡もあり、これの基準を考古学者の富岡謙蔵氏は以下の4条件をあげている。

- ①文様がぼんやりしていて、時に簡略化や無意味になってしまっている。
- ②文様が本来の意味を失っている。
- ③銘文が文字を欠いたり、記号的に扱われたりしている。
- ④周縁に鈴がついている。

以上の4つのうち1つでも条件を満たすものは仿製の三角縁神獣鏡である。

(3)自分の疑問とその答え

しかし、なぜ三角縁神獣鏡は「大陸製」と「仿製」とに分かれるのか。

まず、古墳時代前期の日本には、上記の三角縁神獣鏡のような細かい文様の鏡を作り出す技術がなかった。そのため緻密な神獣像が美しく描かれたものは、大陸の進んだ技術力によって作られたと考えられているのだ。

だが、三角縁神獣鏡及びそれに類似した特徴を持つ鏡は、中国からはたった1枚しか出土していない。大国の中国が、朝貢する日本のためだけに特別に鏡を作ったとはなかなか考えにくいゆえ、三角縁神獣鏡は全て日本製であるという説もある。

3. 古墳時代の鏡の役割

古代、鏡は現代とはまったく異なる使い方をされていた。

○現代→姿を映したり、光を反射させたりするのに使う。

○古代→祭祀に使う。(巫女など)

・太田市塚廻り古墳群第3号古墳出土の巫女埴輪「倚座の女子」は腰に六鈴鏡(ろくれいきょう・鏡の縁に6個の鈴がついた鏡)をつけている。

・高崎市綿貫観音山古墳出土の「三人童女」は、3人それぞれ背中に2枚ずつ鏡をつけている。



↑三人童女の背面 丸いものが鏡 ↑正面から
双方とも群馬県立歴史博物館にて撮影



古代の鏡は青銅で作られていたため、大変貴重なものだった。そのため、限られた豪族しか保有することが出来なかった。だから、鏡は古代において権力の象徴でもあった。



また、鏡は祭祀に用いたため、鏡の背面（私たちがよく目にする方）には、神獣の姿を描いたり、魔よけの文様を施したりといった、豪華な装飾がされた。

鏡面はすべすべで、凸状に少しふくらんでいる。

約1700年という長い時を経た鏡は錆が生じてしまっているが、当時はきらきらと輝き、見る人の心をおおいにひきつけたことだろう。

蟹沢古墳出土三角縁神獣鏡の鏡面→



4. 三角縁神獣鏡の分布

三角縁神獣鏡は、畿内を中心に全国から出土している。

奈良県には、石室から33枚もの三角縁神獣鏡が出土した黒塚古墳をはじめとする大勢力があり、合計100枚もの三角縁神獣鏡が出土しているようだ。ずば抜けて多い出土枚数に、驚愕した。他にも京都府では66枚の三角縁神獣鏡が出土している。

しかし、それにしても東日本での出土枚数が17枚と少数な中で12枚が出土した上野国は、光り輝く豊かな国であったことだろう。

～コラム～

黒塚古墳のある奈良県天理市には、三角縁神獣鏡の模様のマンホールがある！形もマッチしていて、とても感動した。



5. 群馬県から出土した三角縁神獣鏡

(1)三角縁神獣鏡の出土古墳と正式名称

- ①画像文帯龍虎鏡 富岡市 北山茶白山古墳
- ②波文帯盤龍鏡 太田市 頼母子古墳
- ③有銘四神四獣鏡 ③と同じ
- ④陳氏作神獣車馬 藤岡市 三本木(伝)
- ⑤張氏作三神五獣鏡 ④と同じ
- ⑥陳是作四神四獣鏡 ④と同じ
- ⑦正始元年陳是作同向式神獣鏡 高崎市 蟹沢古墳
- ⑧獣文帯三神三獣鏡 ⑦と同じ
- ⑨天王・日月獣文帯五神四獣鏡 前橋市 天神山古墳
- ⑩天王日月獣文帯四神四獣鏡 ⑨と同じ
- ⑪君・宜・高・官獣文帯四神四獣鏡 玉村町 川井稻荷山古墳
- ⑫獣文帯四神四獣鏡 板倉町 赤城塚古墳

〈私の気づき〉

- ・神獣鏡の中にも、龍虎鏡のように「獣」だけのものや、仏像が含まれるものもある。
- ・神や獣の数は、多種多様。
- ・製作者や製作年のわかるものもある。

※なお、③、④、⑤の鏡は現在所在不明となっている。

※また、⑫の獣文帯四神四獣鏡には仏像が含まれる。

〈県内出土の三角縁神獣鏡の画像〉



①画像文帯龍虎鏡 富岡市 北山茶白山古墳



⑫獣文帯四神四獣鏡 板倉町 赤城塚古墳



⑦正始元年陳是作同向式神獣鏡 高崎市 蟹沢古墳



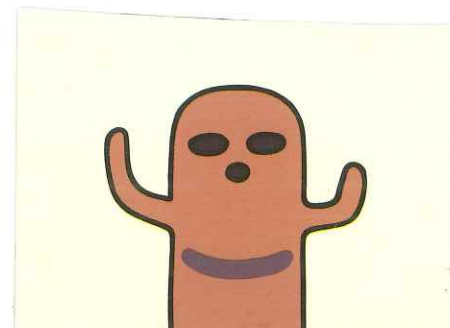
⑧獣文帯三神三獣鏡 高崎市 蟹沢古墳



⑨天王・日月獣文帯五神四獣鏡
前橋市 前橋天神山古墳



⑩天王日月獣文帯四神四獣鏡
前橋市 前橋天神山古墳





①、⑫、⑪の画像は県立歴史博物館で撮影。
⑦、⑧、⑨、⑩の画像はe 国宝の画像より。

⑪君・宜・高・官獸文帯四神四獸鏡 玉村町 川井稻荷山古墳

(2)三角縁神獸鏡が出土した県内の古墳

①画像文帯龍虎鏡出土 富岡市 北山茶白山(きたやまちゃうすやま)古墳

4世紀後半の円墳。帆立貝式古墳の可能性もあり。直径40メートル、高さ約5メートル。富岡市指定遺跡。

→「前方後円墳」でないところを見ると、大和政権との密接な関係はなかったのでは？

しかし、近隣には弥生時代の大きな集落遺跡「中高瀬観音山遺跡」があることから、力のある豪族が葬られたと推測できる。



↑北山茶白山古墳の石碑

②波文帯盤龍鏡 ③有銘四神四獸鏡 出土 太田市 頼母子(たのもし)古墳

墳丘は明治時代に削平されたため詳細は不明。(いわゆる消滅古墳) 墳丘の形も分かっていないが、削平に伴う採土時の記録によると、最も高い地点で5.4メートルの高さがあったそうなので、前方後円墳である確率が高い。

→町内には4世紀後半に築造された、全長124メートルの巨大前方後円墳「朝子塚古墳」がある。また、少し離れた所には東日本最大の古墳の太田天神山古墳(全長210メートル)が5世紀に築かれた。そのため、当時の太田地域には、何代にもわたって大和政権との絆を持ち続けた豪族が存在したのではないか。

⑦正始元年陳是作同向式神獸鏡 ⑧獸文帯三神三獸鏡 出土 高崎市 蟹沢(かにざわ)古墳

墳丘は明治時代に土取りによって消滅。詳細は不明。(こちらも消滅古墳。) 土の量から、小規模な円墳だったと思われる。

→なぜ小規模な古墳で、周りにとりわけ目立つ古墳もない中、三角縁神獸鏡が副葬品に含まれたのか。謎の多い古墳だと感じた。

⑨天王・日月獸文帯五神四獸鏡 ⑩天王日月獸文帯四神四獸鏡 出土 前橋市 前橋天神山古墳

4世紀頃の前方後円墳。全長129メートル。埋葬施設からは、三角縁神獸鏡を含む銅鏡5枚と、当時は珍しかった鉄製の武器や工具が出土した。また、墳丘の頂上からは、神聖な色・赤で塗られた壺型の土器が並んで出土した。これは、埴輪の前の段階の、古代の祭祀に用いた道具である。

⑪君・宜・高・官獸文帯四神四獸鏡 出土

玉村町 川井稲荷山古墳

4世紀末に築かれた、全長約43メートルと推定される小型の前方後円墳。現在は消滅。

→こちらも小型の前方後円墳。



⑫獸文帯四神四獸鏡 出土 板倉町 赤城塚古墳

直径約30メートル、高さ4メートルの円墳。板倉町指定史跡。すぐそばを渡良瀬川が流れる。

→河川の周囲は土地が肥えるため、豪族が多い。その法則からすると、この場所に豪族がいたことも不思議ではない。しかし、周囲に他の古墳があまりないのが疑問だ。

↑前橋天神山古墳

現在は古墳の主要部のみが残されている。

(3)考察

三角縁神獸鏡の出土古墳は、大体4世紀に築造された古墳だ。そして、県内でも前橋、高崎、富岡、太田、玉村、板倉、藤岡と各地域に散らばっている。このことから私は、大和政権は三角縁神獸鏡を配る豪族同士の間隔をあけて、各地域の要所を抑えようとしたのではないかと考えた。

また、意外と小規模な古墳からも鏡が出土していることにも驚いた。いかに上野国が重要視されていたのかを示す史料だと思う。

それとも、(あくまで私の考察だが)大和政権は、豊かな上野国が今後力を貯えて、いつか大和政権を超える大勢力になることを恐れた。そして、そのような事態を未然に防ぐために、上野国に大量の三角縁神獸鏡を配って友好化を図ったのではないかと考えた。

6. 卑弥呼の鏡？

三角縁神獸鏡の中には「銘文」が記されているものもある。この中に、「景初」という年号が含まれるものがある。

「景初」とは、中国の三国時代の魏の年号。そして、歴史でおなじみの日本のことが最初に記された書物である「魏志倭人伝」には、「景初」の時代に、邪馬台国の使者が魏の皇帝のもとを訪れたため、銅鏡100枚を渡した、という記述がある。その鏡こそが、三角縁神獸鏡なのかもしれない。

また、「正始」の年号を含む鏡もあり、県内からも出土している。(⑦「正始元年陳是作同向式神獸鏡」高崎市蟹沢古墳出土)「正始」の時代も邪馬台国が魏に朝貢した年代と一致するため、これもそうなのかもしれない。



高崎市蟹沢古墳出土 正始元年陳是作同向式神獸鏡 部分拡大 銘文が見られる→

7. 三角縁神獣鏡の新旧

(1)三角縁神獣鏡の新旧に関する説

三角縁神獣鏡は、その特徴から古いものと新しいものとに分類することが可能だ。

徳田誠志氏の論文によると、内区を小乳が4分割する鏡は古く、6分割する鏡は新しいものだそうだ。

そして、群馬県から出土した三角縁神獣鏡は、前者の古い神獣鏡がほとんどだ。

このことに関し、徳田氏は以下の2つの説をあげている。

説1

上野国は、古い段階の三角縁神獣鏡が流通していた頃は、畿内勢力（大和政権など）と密接な関係にあったが、新しい段階の三角縁神獣鏡が流通する頃には疎遠になっていた。

説2

畿内で長らく伝世してきた古い三角縁神獣鏡が、新しい段階の三角縁神獣鏡が流通した後に上野国にもたらされた。

私は上記の2つの説の検証を試みた。

(2)説1の検証

前方後円墳は、畿内勢力の大和政権に認められた豪族しか築くことが出来ないという一般論から考えると、その後も巨大前方後円墳が築かれて栄えたことと矛盾すると思う。

また、7世紀には、上野国にも新しい文化の仏教がいち早くもたらされ、それを取り入れた古墳（前橋市の蛇穴山古墳が代表的）が築かれたり、日本最大の塔があった上野国分寺があったり、皇族の墓の形とされる正八角形墳の三津谷古墳（吉岡町）が築かれたりしている。

以上のことから私は、畿内勢力と上野国とは、長い間友好的な関係を築いていたのだと思う。

(3)説2

調査を行ったところ、西日本の古墳では、3世紀後半～4世紀前半の古墳からも三角縁神獣鏡が出土していた。例：椿井大塚山古墳・赤塚古墳・備前車塚古墳・黒塚古墳

そして、4世紀後半以降、西日本の古墳での三角縁神獣鏡の出土はとても少なくなっている。

上野国の三角縁神獣鏡出土古墳は、4世紀後半に築造された所がほとんどだ。

このことから、説2の「畿内で長らく伝世してきた古い三角縁神獣鏡が、新しい段階の三角縁神獣鏡が畿内で流通した後に上野国にもたらされた」という方がより現実性があるのではないかと考えた。

この先は私の考察だが、新しい段階の三角縁神獣鏡は、仿製とされる特徴を持つものが多い。古い段階の三角縁神獣鏡が、大陸製の高度な技術力で作られたものだとすると、そちらの方が価値が高かったのではなかろうか。また、古くから知られているということで、上野国にもたらされた際、新しい段階のものよりも人々の心を惹きつけたのではないか。



8. 感想

まず初めに、三角縁神獣鏡を目にした時、その美しい文様や、青銅の色合いに心を奪われた。その鏡は、私達に古代の様子を映して見せてくれるような気がした。

三角縁神獣鏡について調査する中で、東国文化の中心の上野国が、古墳時代に重要視されていたことが、「モノ」という観点からも再確認できた。三角縁神獣鏡をめぐるのは、日本史最大の謎の邪馬台国議論とも結びついており、考古学者の間で今も活発に意見が交わされている。

この研究を通して考えた私の仮説

- ①畿内勢力は三角縁神獣鏡を配ることで各地域の要所を抑えようとした。
- ②畿内勢力は豊かな上野国がいつか大和政権を超える大勢力になることを恐れ、そのような事態を未然に防ぐために、大量の三角縁神獣鏡を配って友好化を図った。
- ③畿内勢力と上野国とは長い間友好的な関係を築いていて、畿内で伝世された古い三角縁神獣鏡が、新しい段階の三角縁神獣鏡が畿内で流通した後に上野国にもたらされた。
- ④三角縁神獣鏡が上野国にもたらされたとき、古い段階の三角縁神獣鏡の方が、価値が高かった。

について、多分野の資料を調査して考えていきたいと思った。

そして、今私達が文化財について見たり、知識を得たりする機会を得られるのは、先人たちが文化財を大切に守り継いできたからだ。様々な場所で、様々な分野の人が、それぞれの持つ力を結集させて文化財を次の世代へとつなぐために奮闘した。その成果が、今私の目の前にある文化財なのだ。だから、多くの人たちの、文化財にかけた熱意、費やした時間、未来に遺すのだ、という強い願望に対して、感謝の気持ちを持つことが大切だと思う。

私は、その文化財のバトンを未来へとつなげていきたい。それは私の使命であるとともに、未来の人たちとの約束だから。

【参考文献】

- ・群馬県立歴史博物館第103回企画展「古墳大国群馬へのあゆみ」展示図録
- ・「陵墓と宮内庁所蔵の群馬県出土考古品について」 徳田誠志 上記展示図録の論考
- ・東国文化副読本 2020年度版
- ・群馬県公式はにわガイドブック HANI一本
- ・<https://grekisi.pref.gunma.jp/> 群馬県立歴史博物館 HP
- ・<https://emuseum.nich.go.jp/top?langId=ja&webView=e> 国宝 国立文化財機構所蔵 国宝・重要文化財
- ・<https://kofun.info/> 古墳マップ
- ・<https://www.kunaicho.go.jp/ryobo/index.html> 天皇陵 宮内庁
- ・https://www.media.gunma-u.ac.jp/content/files/announce/clib/ozaki_D_4.pdf 「三角縁神獣鏡とは？」
- ・<http://www.ne.jp/asahi/histrian/takasaki/photoindex4027.html> 高崎史心の会
- ・<https://www.kyohaku.go.jp/jp/dictio/kouko/223> 京都国立博物館 博物館ディクショナリー
- ・<https://www.town.tamamura.lg.jp/docs/2014092900030/> 玉村町 HP